

# 抗がん剤投与確認書

胃がん レジメン:TAS-102/RAM(8 mg/kg)

患者名: \_\_\_\_\_ 年齢: \_\_\_\_\_ 歳 (ID: \_\_\_\_\_ ) レジメン確認薬剤師 印  
 体表面積: \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> 体重: \_\_\_\_\_ kg 血清 Cr: \_\_\_\_\_ mg/dL CLcr: \_\_\_\_\_ mL/min

対象疾患: 切除不能・再発胃がん その他( \_\_\_\_\_ ) **28日間/1コース**

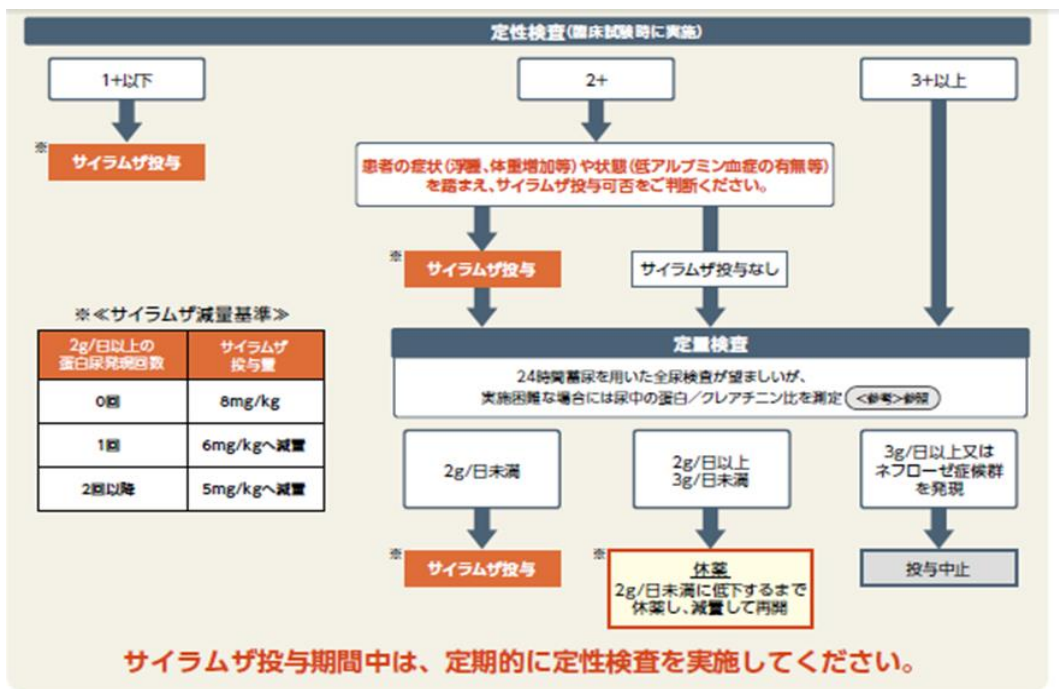
	day 1-5	day 8-12	day15	休薬(13日間)
ロンサーフ 35 mg/m <sup>2</sup>	→	→	...	...
RAM サイラムザ (8 mg/kg)	↓	...	↓	...

■ **サイラムザ(RAM)非吸着用セット・インラインフィルター付き**を使用:2週間隔

TAS-102 : 35 mg/m<sup>2</sup> × 【 \_\_\_\_\_ 】 m<sup>2</sup> = 【 \_\_\_\_\_ 】 mg → 【 \_\_\_\_\_ 】 mg

RAM : 8 mg/kg × 【 \_\_\_\_\_ 】 kg = 【 \_\_\_\_\_ 】 mg → 【 \_\_\_\_\_ 】 mg

## <RAM>



## <RAMの休薬基準>

出血 G2 以上、蛋白尿 G2 以上、肝機能障害 G3 以上

## 高血圧

- コントロール不良な高血圧症 (収縮期血圧 ≥ 150 mmHg、拡張期血圧 ≥ 90 mmHg の人)、症状を伴う高血圧症の人へのサイラムザ投与は、高血圧が悪化するおそれがあるため注意が必要です。
- サイラムザ投与開始前及び投与期間中は定期的に血圧を測定し、高血圧があらわれた場合には、降圧剤の投与等、適切な処置を行ってください。

《用法・用量に関連する使用上の注意》

1. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の投与にあたっては下記に留意し、必要に応じ休薬、減量を実施すること。  
好中球数及び血小板数の変動に十分留意し、次コース投与前の臨床検査で好中球数が1,500/mm<sup>3</sup>未満又は血小板数が100,000/mm<sup>3</sup>未満であれば、骨髓機能が回復するまでは投与を延期すること。投与後、好中球数が7日間以上にわたって500/mm<sup>3</sup>未満となった場合、血小板数が50,000/mm<sup>3</sup>未満となった場合、発熱性好中球減少症が発現した場合は次回の投与量を減量すること。  
また、高度(Grade 3)な末梢神経障害が発現した場合には、軽快又は回復(Grade 1以下)するまで投与を延期し、次回の投与量を減量して投与すること。

《減量の目安》

減量段階	投与量
通常投与量	260mg/m <sup>2</sup>
1段階減量	220mg/m <sup>2</sup>
2段階減量	180mg/m <sup>2</sup>

《参考》尿中の蛋白/クレアチニン比<sup>12)</sup>

随時尿の「尿蛋白/クレアチニン比」は、以下により求めることができます。

尿蛋白/クレアチニン比 = 随時尿の尿蛋白定量結果 (mg/dL) / 尿中クレアチニン濃度 (mg/dL)

「尿蛋白/クレアチニン比」のポイント

1日尿蛋白排泄量 (g/日) とほぼ等しい、もしくはよく相関することが知られています。  
尿蛋白/クレアチニン比が0.3～0.5の場合、尿蛋白排泄量は0.3～0.5g/日程度と推定できます。

日本イーライリリー サイラムザ適正使用ガイド一部抜粋

＜TAS-102＞

好中球数 1000/mm<sup>3</sup> 未満、血小板数 50000/mm<sup>3</sup> 未満、総ビリルビン値 2.0mg/dL を超える、AST/ALT 施設基準値上限の2.5倍を超える、クレアチニン 1.5mg/dL を超える、非血液学的毒性 G3 以上

＜ロンサーフ減量の基準＞

好中球数 1000/mm<sup>3</sup> 未満もしくは、血小板数 50000/mm<sup>3</sup> 未満(G3)かつ合併症がある場合、

好中球数 1000/mm<sup>3</sup> 未満もしくは、血小板数 50000/mm<sup>3</sup> 未満(G3)かつ次コースの開始が28日以上遅れた場合

好中球数 500/mm<sup>3</sup> 未満もしくは血小板 25000/mm<sup>3</sup> 未満 の場合

＜減量基準＞

前コース(休薬期間を含む)中に減量基準に該当する有害事象が発現した場合には、本剤の投与再開時においてコース単位量として10mg/日単位で減量する。ただし、最低投与量は30mg/日とする。

＜文献＞

Safety and activity of trifluridine/tipiracil and ramucirumab in previously treated advanced gastric cancer:an open-label,single-arm,phase 2 trial

Lancet Oncol 2021;6:209-17

＜備考＞

平成 年 月 日

指示医サイン \_\_\_\_\_

指導医サイン \_\_\_\_\_

看護師サイン \_\_\_\_\_

\* 投与量を確認するもので、指示書では有りません。投与量を変更する場合は赤字で訂正、追加して下さい。

\* 自治医科大学附属さいたま医療センター、がん化学療法小委員会

2021年4月30日作成